

2020年度 後期・秋学期オンライン授業に関するアンケート結果概要（学部学生）

2回目となる「オンライン授業に関するアンケート」を実施いたしました。前期から特に変化の大きかった項目やいくつかのポイントを抜粋してサマリーを作成しましたので、ご活用ください。

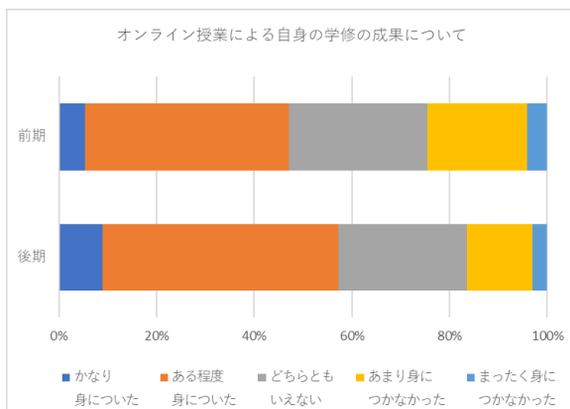
【調査の概要】

- ・実施期間：2021年2月25日～3月17日
- ・対象：学部学生
- ・回答者数 5703人（調査対象者に占める回答者の割合：23.2% ←前期回答者割合：13.2%）

UPI! 学修成果「身についた」

学修成果「身についた」学生が10%増

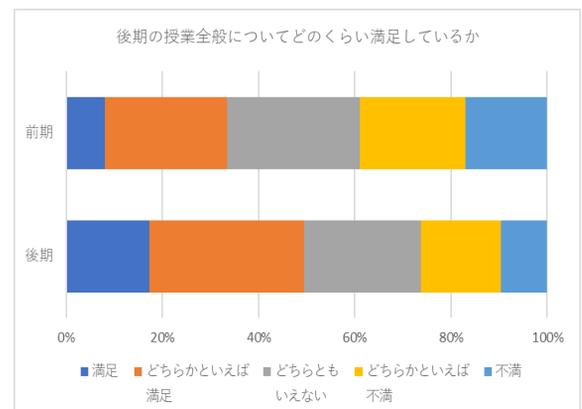
問12「オンライン・ハイブリッド授業による自身の学修の成果について」の回答で、「かなり身についた」「ある程度身についた」と肯定的に答えた学生の割合が前期から10ポイント程度増加した(47.1%→57.3%)。



UPI! オンライン授業「満足」

「満足している」学生が15%増

問13「後期・秋学期の授業全般について、どの程度満足しているか」で、「満足」「どちらかといえば満足」と肯定的に答えた学生の割合が、前期から15ポイント程度増加した(33.5%→49.4%)。

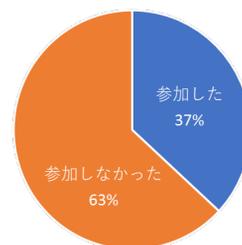


ハイブリッド授業

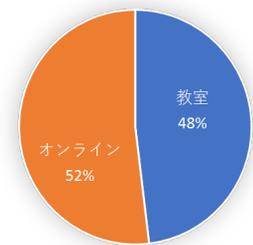
ハイブリッド授業参加は全体の約4割

ハイブリッド授業に参加した学生は全体の約4割。教室とオンラインどちらで受講したかはほぼ半々。

ハイブリッド授業に参加したか



教室とオンラインのどちらで参加したか



「授業形式を選べる」良さ

ハイブリッド授業に「教室で参加して良かった点」「オンラインで参加して良かった点」は下記の通り。それぞれが重視したいことをもとに、受講場所を選択したことが良くわかる結果となった。

ハイブリッド授業に「教室で参加して良かった点」

1位	教室にいる参加者との交流	54.9%
2位	授業への参加のしやすさ	45.2%
3位	教員との交流	42.4%
4位	授業前後を含めた友人との交流	39.4%

(複数回答)

ハイブリッド授業に「オンラインで参加して良かった点」

1位	時間が有効に使える	64.5%
2位	授業への参加のしやすさ	59.5%
3位	安全性	45.6%
4位	授業内容の理解の深まり	14.0%

(複数回答)

ハイブリッド授業の難点「中途半端さ」

悪かった点(自由記述)は、教室・オンラインの受講場所にかかわらず、共通したものが多く見られた。

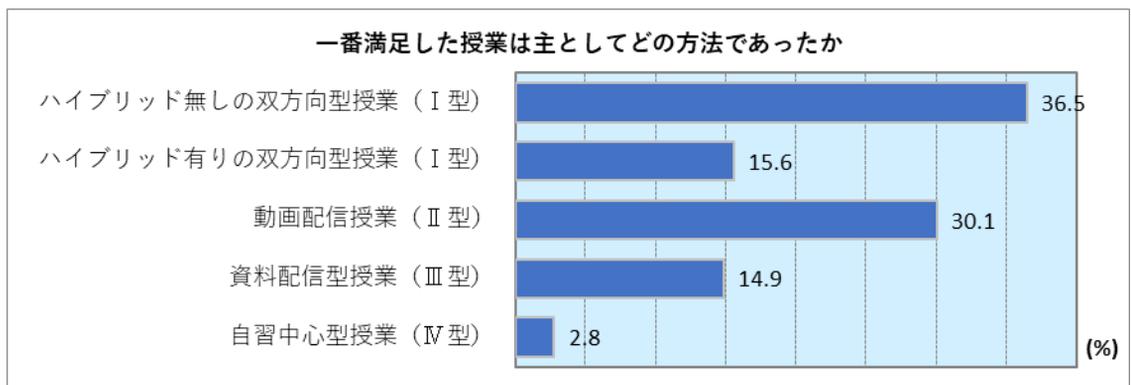
- ・ 授業の進行が遅くなった、授業のテンポが悪くなった
- ・ PC等の環境整備やトラブル解決のための待ち時間が長かった
- ・ オンライン⇔教室の意思疎通が難しかった
- ・ 質問が無視された、取り上げられにくいことが多かった
- ・ オンラインと対面の人との間で、課題や実験の負担に差があった

教員が、オンラインと対面の両方の学生に配慮・対応しながら授業を進めなければならないため、どちらに対しても中途半端になってしまうところはどうしてもあり、それが授業の間延び感、無視された感につながっていると考えられる。

一番満足した授業形態は？

このハイブリッド授業の悪かった点が「一番満足した授業は」の回答結果につながっているようだ。対面授業(ハイブリッド無の双方向型授業)の次に満足度が高いのは、自分にあわせて形式が選択できる「ハイブリッド有の双方向型授業」かと思われたが、その2倍近くが、全面オンラインである「動画配信授業」の方を選択した。

「授業間の移動や時間の配分が難しい」という理由からも「例えば曜日等によって全面对面か全面オンラインにしてほしい」という意見は多く見られた。



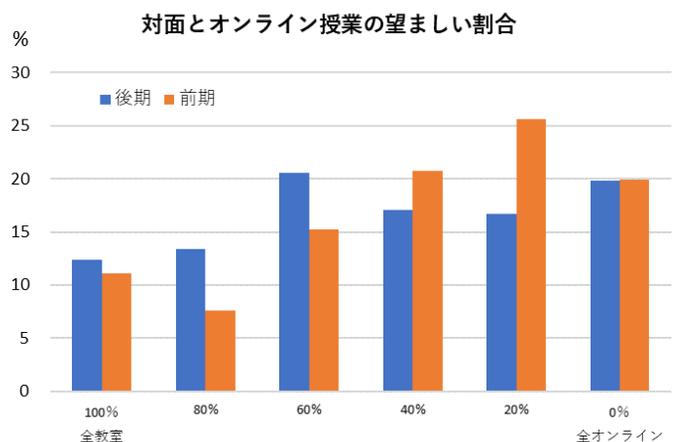
対面とオンラインの望ましい割合は

前期より対面を多く望む割合がUP 全オンラインを望む2割に変化なし

対面とオンラインの望ましい割合を聞いた設問では、前期より、対面を多く望む学生が増加した。

一方で、全面オンラインを望む学生も2割程度おり、この割合は前期→後期で増減が無かった。

全てがオンライン授業であることに意義を感じる層が、一定数いることが推測される。



オンライン授業の良かった点・悪かった点

全ての項目で「良かった点」の割合がUP

複数回答での設問であったが、良かった点としてあげられた項目全てで前期より割合が増加した。

逆に悪かった点については、全ての項目で割合が減少した。

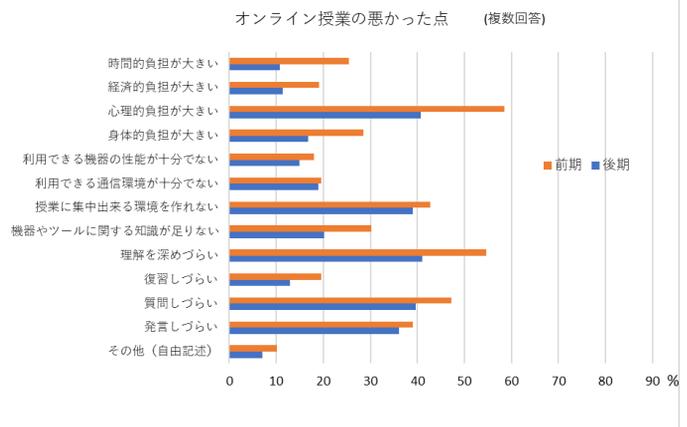
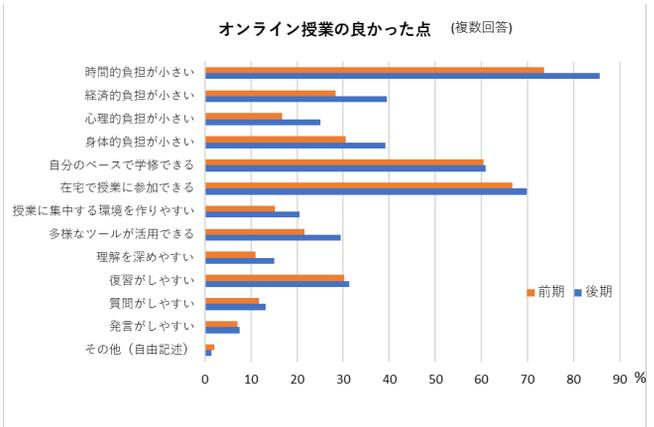
オンライン授業への慣れもあり、よりその良さが実感できるようになったためではないかと考えられる。

自由記述と合わせてみると、下記の4つが主にオンライン授業の利点だと捉えられている。

- ・授業録画を繰り返し視聴できる
- ・オンタイムでなくても参加できる
- ・自分のペースに合わせて学習できる
- ・空き時間を学習その他の活動にあてられる

逆に悪かった点は、下記が多く見られた。

- ・友だち、交流ができず孤立感がある
- ・目などの身体的な痛み
- ・質問しづらい
- ・教員からのレスやフィードバックがない
- ・課題が増えた、多い
- ・授業が長く感じ集中が続かない



より良いオンライン授業へ

オンライン授業、ハイブリッド有の双方向型授業は、現在の状況下でなくなっても、今後ははずせない選択肢になっていくと考えられる。集計結果・自由記述などからみてとれる、満足度を上げていくための改善点を3つの枠組にまとめた。

交流・参加機会の提供

例えば…

授業時間内に質問時間を定期的・意識的に設ける
授業時間外の質問方法の周知

グループワークやブレイクアウトセッションの積極活用
初めの自己紹介や進行役指定など、いくつかの方策を教員の方で指示するなど

アクション機能や小テスト等を利用、授業への参加感を高める

環境への対応

例えば…

接続トラブル解消の機器整備
トラブル時対応人員・環境整備

授業中の通信状況や質問等を確認管理し、教員につなぐTAなどの配備増

対面・オンライン授業のそれぞれに配慮した時間割設定

接続機器貸出等の周知徹底

教材・課題の配慮

例えば…

授業動画は長くなりすぎないようにする、いくつかに分割する

授業動画は録画し授業終了後も視聴可能にする、視聴期間は長めに設定する

課題が試験前などに集中しないようにする。ゆとりのある提出締切の設定

課題・レポート提出形式の周知や統一